



昨年5月から5回を数えたパテイン、ピーポン及びシュエポーの普及員研修が終了し、普及員の指導の下、農家が生産したCSの販売促進のための精米デモンストレーションもマウンミヤを最後に無事終わることが出来ました。販売促進活動はC/Pが継続実施していますが、3月はプロジェクト活動の節目と言えます。1年の活動を振り返ると、農民、精米業者、農業畜産灌漑省職員の種子品質への「こだわり」が強くなったように感じます。今年の雨期は、更に多くの農家がCSを使用してコメを生産してくれることを期待しています。

2019年度第5回普及員研修（ピーポン） 今年度最後となる研修をピーポンにて行いました（3/4-5）。主な内容は「種子生産活動の振り返り報告」。今回はスライドを事前に準備してもらったので、活動の写真も盛り込まれているため現場のイメージもつかみやすく、“リアルな”意見交換ができました。研修とあわせて、こちらが現場のことを普及員から教えてもらってます。最終日には最終テストを実施。皆さん真剣（写真中）。研修最後に、第1回から5回までの研修をやり通した参加者に修了証書を授与しました（写真右）。



マウンミヤ精米デモ 今回は全国作付面積が一番のSinthukha品種を使用しました。85%の整粒歩合と異品種混入が無い高品質な粗米に、参加者はCSの価値を高く評価していました。

ラオス農業省調査団の視察 同国は輸出を視野に入れたコメ生産の強化を図るため、高品質種子生産プロジェクトを計画しています。そのため、ミャンマーがJICA技術協力をどの様に活用して種子の品質向上に取り組んでいるのか、農業局、農業研究局との意見交換やCS生産現場の視察を通じて情報収集しました。皆、ミャンマーの普及員と農民の品質への「こだわり」を賞賛していました。



第5回PIC会議 3/18にネビドー農業畜産灌漑省にて第5回PIC会議が開かれました。DOA本部から局長、局次長、担当課長らも参加。課題共有と建設的な議論が出来ました。

職場についていいですか？（エーヤワディー最南端Amar地区） 普及員の活動環境をより理解すべく、研修翌日に参加者が任地へ戻る際について行き、現場をみせてもらいました。海岸に近く、塩害に遭いやすい。乾期は水不足。非電化。広大な水田面積に対し、少ないスタッフと狭い事務所。困難な環境の中、彼女は農家とも良好な関係をつくり頑張っていました。



Daw Maw Maw Than

広大な水田

彼女が担当する農家と

狭い事務所です上司と机を折半

海は近い

ミャンマーでの新型コロナウイルスの感染者数は3月末現在14名報告されています。政府は感染拡大防止のため海外からの入国者への検査強化や隔離措置、国内の移動自粛などの対策を講じています。私達プロジェクト専門家はJICAの指示に従い3月下旬に全員帰国しました。一日も早く事態が収束し、現場に戻れますように…。FBアカウントをお持ちの皆様は、公式サイトも是非ご訪問ください。URL (<https://www.facebook.com/jica.pure.cs.project/>) (編集委)